



企画展の開催にあたって

古津八幡山遺跡は、1987 年に磐越自動車道の土取り工事に伴う試掘調査により発見されました。これまで 24 次の発掘調査が行われ、県内最大の古墳（約 1600 年前）や弥生時代後期・終末期（約 1750 年～2000 年前）の大規模な高地性環濠集落などが確認されています。

重要な遺跡であることから、1990 年に遺跡の主要な範囲が保存されることとなり、2005 年には国の史跡に指定されました。その後、遺跡の整備事業を始め、主要エリアの整備が終わった 2015 年から「古津八幡山遺跡歴史の広場」として全面公開をしています。

今年は古津八幡山遺跡が発見されてから 35 年、古津八幡山遺跡のガイダンス施設である「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」が開館してから 10 年を迎えます。本企画展では、この節目の年に古津八幡山遺跡のこれまでの発掘調査や保存、史跡指定、その後の整備・活用などのあゆみ、今後の課題などについて展示・解説します。



弥生時代の竪穴住居と古墳の盛土断面（第 1 次調査）



古津八幡山遺跡全面公開開場式（2015 年 4 月 17 日）

古津八幡山遺跡発見前史

新津丘陵では、植物や動物などの豊かな自然環境と関わりあいながら、1 万年以上前の旧石器時代から人々は暮らしてきました。

明治時代初期の地図を見ると、古津八幡山古墳の場所には八幡社境内と記されており、かつて社が鎮座していたことが分かりますが、明治時代末期頃の全国的な神社合祀の流れで取り壊されたようです。

金津丘陵一帯では、第2次世界大戦前後の食糧が不足していた時期に畑作が行われており、戦後のスギをはじめとする植林事業、さらには1970・1971年の柿畑の造成など、時代によって里山の様相も変化してきました。また、1976年には国設環境大気測定所が古墳の頂上部に設置されました。

1987年、磐越自動車道建設の土取り計画に伴う試掘調査が行われ、長らく地下に埋まっていた古津八幡山遺跡が発見されることとなります。



第二十大区小三区古津村実測図第1号
(明治時代初期)



古墳の頂上部にあった国設環境大気測定所

これまでの調査

1987年に金津丘陵で計画された土取り工事に伴い第1次調査が行われました。その結果、それまで城館跡とされていた遺構については古墳の可能性が指摘されました。さらに古墳の盛土の下には弥生時代の竪穴住居が存在し、弥生土器などの遺物も多数出土したことから高地性集落の可能性も指摘されました。なお、第1次調査では製鉄遺跡も多数発見されています。

弥生時代の集落については、第1・10・13・14・16次調査によって内容がほぼ明らかになりました。竪穴住居や墓などで構成される集落が確認され、環濠や条溝がどのように集落を囲んでいるのかが判明しました。

古津八幡山古墳については、第1・11・12・17～19次調査で、古墳の規模や築造方法などがわかりました。

2017年からは、遺跡北東域の標高約25mを測る丘陵中腹域、史跡指定地外の場所において、内容把握のための発掘調査を行っています。これまでに遺跡の中で最大となる大型竪穴建物や方形周溝墓が確認されるなど、古津八幡山遺跡はもとより、当時の社会を考えるうえで重要な発見が続いています。

古津八幡山遺跡調査一覧

年度		発掘調査				発掘調査の概要	調査面積	調査報告書
S62	1987	確認調査	1 次	北地区 (古墳)	1987 (S62) 9. 28～10. 9	市教育委員会による確認調査 (担当 県文化行政課戸根) 八幡山城跡ー古墳の可能性を指摘盛土下から堅穴住居跡検出 八幡山遺跡の発見	502 m ²	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
		確認調査	2 次	北地区	1987 (S62) 11. 24～12. 8	市教委 (担当 川上) による確認調査	77 m ²	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
					1988 (S63) 3. 8	八幡山遺跡発見通知を文化庁に提出		『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
S63	1988	確認調査	3 次	北地区	1988 (S63) 6. 23～9. 16	市教委による確認調査 (担当 川上) 環濠・住居跡・前方後方形周溝墓等の検出	3, 317 m ²	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
		確認調査	4 次	南地区	1988 (S63) 9. 21～10. 3	市教委による確認調査 (担当 川上・荒木) 遺物出土、「狼煙台」とされる焼土坑の検出	207 m ²	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
		確認調査	5 次	南地区	1988 (S63) 11. 9～11. 18	市教委による確認調査 (担当 伊与部) 堅穴住居跡の検出	156 m ²	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
H2	1990	発掘調査	6 次	南地区 (記録保存)	1990 (H2) 5. 26～7. 9	市教委による発掘調査 (担当 川上)	6, 500 m ²	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
		確認調査	7 次	南地区・ 南西地区	1990 (H2) 7. 23～8. 10	県文化行政課・市教委による確認調査 (担当 渡邊) 南地区で環濠・住居跡等の検出 遺跡の範囲拡大	13, 180 m ² (第6次調査分含む)	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
H3	1991	確認調査	8 次	南地区 (記録保存)	1991 (H3) 5. 20～10. 31	市教委による発掘調査 (担当 渡邊) 住居跡・焼土坑の検出	9, 000 m ²	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
		測量調査		北地区 (古墳)	1991 (H3) 6. 25～8. 31	古津八幡山古墳の測量調査 (古津八幡山古墳調査団 代表新潟大学甘粕教授) 墳丘長約 60m の 2 段構築の造出し付円墳と推定		『古津八幡山古墳 I 1991 年測量調査報告』1992 (新津市教委)
H5	1993	確認調査	9 次	北地区	1993 (H5) 9. 21～11. 5	市教委による確認調査 (担当 渡邊) 環濠が古墳の東側・北東斜面に 100m 以上延びることを確認	372 m ²	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
H6	1994	確認調査	10 次	北地区	1994 (H6) 9. 16～11. 14	市教委による確認調査 (担当 渡邊) 環濠の確認 初めて方形周溝墓 2 基検出	590 m ²	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
H12	2000	確認調査	11 次	北地区 (古墳)	2000 (H12) 7. 3～7. 7	市教委による古津八幡山古墳の確認調査 (担当 立木) 環境省の測定所撤去に伴う事前確認調査	15 m ²	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
H13	2001	確認調査	12 次	北地区 (古墳)	2001 (H13) 3. 16～5. 18	市教委による古津八幡山古墳の確認調査 (担当 立木) 環境省の測定所撤去に伴う確認調査	46. 18 m ²	『八幡山遺跡発掘調査報告書』2001 (新津市教委)
H14	2002	確認調査	13 次	北地区	2002 (H14) 6. 3～10. 7	市教委による確認調査 (担当 渡邊) 外環濠・内環濠の各末端を確認し、各所で分断していることを確認 堅穴住居と環濠の重複関係を確認	843. 9 m ²	『八幡山遺跡群発掘調査報告書ー第 11・12・13・14 次調査ー』2004 (新津市教委)
H15	2003	確認調査	14 次	北地区・ 北東地区	2003 (H15) 5. 23～10. 23	市教委による確認調査 (担当 渡邊) 埋葬地遺跡で弥生時代の堅穴住居を検出 古津八幡山古墳の北西斜面で新たな環濠を確認	1, 060. 25 m ² (北地区 698. 54 m ² 、 北東地区 361. 71 m ²)	『八幡山遺跡群発掘調査報告書ー第 11・12・13・14 次調査ー』2004 (新津市教委)
H18	2006	確認調査	15 次	北地区 (東谷)	2006 (H18) 9. 25～11. 10	市教委による確認調査 (担当 相田) 製鉄関連遺構を検出 水田遺構は検出されず	84. 6 m ² (1・2T)	『史跡古津八幡山遺跡発掘調査報告書ー第 15・16・17・18・19 次調査ー』2014 (新潟市教委)
H22	2010	確認調査	16 次	北地区	2010 (H22) 6. 14～7. 24	市教委による確認調査 (担当 渡邊ますみ) 古津八幡山古墳北西にある外環濠 D の南東端を確認 2 系統の外米系土器が供伴して出土	56. 3 m ² (1～4T)	
		レーダー 探査		北地区 (古墳)	2010 (H22) 8. 30～9. 1	古津八幡山古墳墳頂部のレーダー探査調査 (代表 東京工業大学教授 亀井宏行)		
H23	2011	確認調査	17 次	北地区 (古墳)	2011 (H23) 7. 11～11. 25	市教委による古津八幡山古墳確認調査 (担当 相田) 古墳や周濠の形・規模が判明	443. 13 m ² (1～20T)	
H24	2012	確認調査	18 次	北地区 (古墳)	2012 (H24) 5. 29～12. 25	市教委による古津八幡山古墳確認調査 (担当 相田) 古墳の築造方法が判明 墳頂部で平安時代の方形に巡る溝を確認	459. 58 m ² (21～37T・ 墳頂部)	
H25	2013	確認調査	19 次	北地区 (古墳)	2013 (H25) 6. 3～8. 20	市教委による古津八幡山古墳確認調査 (担当 渡邊) 周濠の形状が判明 古代の焼土坑を確認	86. 0 m ² (38～43T)	
H29	2017	確認調査	20 次	北東地区 (史跡外)	2017 (H29) 7. 19～11. 13	市教委による確認調査 (担当 相田) 弥生時代の堅穴住居、柱穴群を確認	218. 0 m ²	報告書未刊行
H30	2018	確認調査	21 次	北東地区 (史跡外)	2018 (H30) 5. 30～11. 2	市教委による確認調査 (担当 相田) 弥生時代の掘立柱建物を確認 弥生時代終末期の大型堅穴住居が判明	195. 0 m ²	
R 1	2019	確認調査	22 次	北東地区 (史跡外)	2019 (R 1) 5. 27～11. 19	市教委による確認調査 (担当 相田・小林) 弥生時代終末期の大型堅穴建物やその周辺を確認	212. 4 m ²	
R 2	2020	確認調査	23 次	北東地区 (史跡外)	2020 (R 2) 7. 6～10. 17	市教委による確認調査 (担当 相田・田中) 弥生時代終末期の大型堅穴建物や尾根北側を確認	141. 2 m ²	
R 3	2021	確認調査	24 次	北東地区 (史跡外)	2021 (R 3) 6. 28～11. 24	市教委による確認調査 (担当 相田・平山) 弥生時代後期の方形周溝墓や堅住居を確認 方形周溝墓は 3 基の埋葬施設	194. 7 m ²	

遺跡の保存・史跡指定までの経過

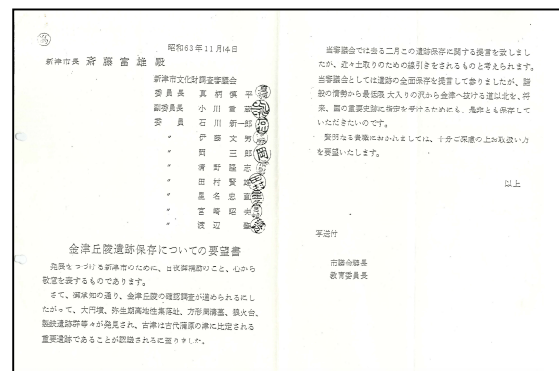
1987 年、1988 年と発掘調査が進み、遺跡の内容が明らかになるにつれて、日本海側で最北に位置する高地性環濠集落として全国的に注目を集め、遺跡の保存を求める要望書も多方面から寄せられることとなります。

1988 年から 1990 年にかけて、地元の（社）新津青年会議所などが主催となって講演会が開催されるとともに、新津市文化財調査審議会や新津郷土史研究会などによる遺跡保存の提言や要望書が、新津市長や新津市教育長などへ提出されます。このような地元の熱意とともに、保存への要望の動きは日本考古学協会や文化財保存全国協議会など、全国規模に広がっていきました。



講演会（甘粕健氏・坂井秀弥氏 1988 年）

1990 年、第 7 次調査までの結果を踏まえて県教育委員会と新津市教育委員とで協議を行い、ついに古津八幡山遺跡の主要部分を含む 19.7 ヘクタールを現状保存することが決まりました。さらに、今後は国指定史跡となるよう積極的な方策を講じるとともに、遺跡の保護や活用につとめるといった基本方針も取り交わされました。そして、2005 年 7 月 14 日、古津八幡山遺跡は菖蒲塚古墳・旧新潟税関に次ぐ新潟市 3 例目の国史跡に指定されました。



「金津丘陵遺跡保存についての要望書」

（新津市文化財調査審議会委員）

古津八幡山遺跡などに係る保存の活動や講演会など

1988/2/10	(社)新津青年会議所を中心に結成した新津の古代と今を考える集い（新古今集）主催「新津の古代に思いをはせる」講演会 坂井秀弥(調査担当者 新潟県教育庁)・甘粕健(新潟大学教授)
1988/2/12	新津市文化財調査審議会委員が「古津八幡山遺跡保存に関する提言書」を新津市長に提出
1988/4/24	新潟産業考古学会主催 甘粕健(新潟大学教授)記念講演会
1988/9/4	(社)新津青年会議所主催 佐原真(奈良文化財研究所)記念講演会
1988/9/10	古津八幡山遺跡現地説明会 324名
1988/10/24	同志社大学校友会新潟支部主催 森浩一(同志社大学教授)記念講演会
1988/11/14	新津市文化財調査審議会委員が「金津丘陵遺跡保存についての要望書」を新津市長宛に提出
1988/11/28	新潟県内に在日日本考古学協会会員19人が「八幡山・蒲ヶ沢遺跡群の保存要望書」を新津市教育長宛に提出
1988/12/5	日本考古学協会が「八幡山・蒲ヶ沢遺跡群の保存要望書」を新津市長宛に提出
1989/1/9	新津市文化財調査審議会委員が「金津丘陵遺跡群保存に関するお願い」を新潟県教育庁文化行政課長宛に提出
1989/4/13	新津郷土史研究会が「八幡山・蒲ヶ沢遺跡群の保存要望書」を新津市長宛に提出 署名数8422名
1989/5/27	日本考古学協会が「新潟県新津市八幡山遺跡の保存に関する要望決議」を新津市教育長宛に送付
1989/8/15	文化財保存全国協議会が「新津市蒲ヶ沢遺跡群保存要望書」を新津市長・新潟県教育長・文化庁長官宛に提出 署名数1200名
1989/10/21	金津丘陵製鉄遺跡群の現地説明会
1990/8/20	新津市文化財調査審議会委員が「金津丘陵の遺跡の保存について」を新津市長宛に提出

記録保存調査とふるさと公園整備事業

1990年に記録保存が決まった遺跡の南側約9,000㎡については、1990・1991年に発掘調査を行っています。遺跡南東側の頂部付近から斜面にかけての範囲で、弥生時代の竪穴住居4基などが存在しましたが、記録保存後の土砂採取により残念ながら現在は残っていません。

なお、かつては、南東側にある法面から新潟県埋蔵文化財センターにかけての範囲に、現存部分よりもさらに3m程高い標高53mを頂部とする緩やかな尾根が続いており、竪穴住居はその頂部付近を避けて一段下がった北側から東側の標高50m付近に点在して存在していました。

また、1990年から1993年にかけて自治省のふるさとづくり事業の選定を受け、「花と遺跡のふるさと公園整備事業」として、休憩舎や復元竪穴住居、復元住居跡露出展示、展望棟、木製遊具などが建設課主導のもと整備されました。しかし、不明確な部分での推定による復元など、少なからず問題のあった整備であったことから、史跡指定後の再整備の際には、新しい基本方針のもと、それらの多くは除却されています。



かつて存在した休憩舎

遺跡整備の歩み

国史跡に指定された2005年に、整備検討委員会の指導に基づき遺跡整備の基本設計を策定するとともに、指定地の公有化を行いました。基本設計には「現代的なものは原則として造らない」という方針が示されました。

2006年から2009年にかけて、史跡の主要範囲である弥生時代の高地性環濠集落部分について、保護盛土造成や竪穴住居7棟・環濠・方形周溝墓などの復元工事を行い、2012年4月、ガイダンス施設である弥生の丘展示館の開館とともに「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として暫定オープンしました。

さらに、2011年2月に古墳部分が追加指定されたのを受け、2011年から2013年に古墳の発掘調査を行い、その調査成果をもとに、2013年・2014年に古墳部分の保護盛土造成や古墳の復元工事などを行い、2015年4月より「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」の全面公開を開始しています。



弥生の丘展示館開館式（2012年4月20日）



八幡山遺跡基本構想策定委員会（2003 年）



古津八幡山遺跡保存整備検討委員会のようす（2007 年）



古津八幡山遺跡復元整備工事のようす（2009 年）



古津八幡山古墳復元整備工事のようす（2014 年）



遺跡遠景（1991 年）



遺跡遠景（2014 年）



調査前の古津八幡山古墳（2011 年）



復元整備後の古津八幡山古墳（2014 年）

活用の歩み

弥生の丘展示館では、古津八幡山遺跡や弥生時代・古墳時代について、出土品やイラスト・映像などを見ながら学習することができます。また、おもに弥生時代・古墳時代の暮らしに関連する体験を通して古津八幡山遺跡への興味や関心を持ってもらえるよう、火起こしや勾玉づくりなどの体験学習を常時行っているほか、土器づくりや発掘体験などの各種イベント、展示解説、講演会なども行っています。おかげさまで、開館してから年間平均4万人以上と多くの方に利用して頂いています。

また、裏山にある史跡公園では、弥生時代の竪穴住居や環濠、古墳時代の古墳などが復元整備されており、弥生時代や古墳時代の景観や暮らしなどを体験・体感することができます。市内の小学校の7割が、授業の中で古津八幡山遺跡を取り上げており、校外学習で利用した学校からは、実際に現地を見て学習・体験できる点など好評です。

史跡公園やその周辺では、これまで竹の皆伐を目的としたタケノコ掘りや竹細工、竪穴住居での宿泊体験、里山の植物観察、星空観察、稲作体験など、さまざまなイベントを行っているほか、発掘調査の現地説明会を実施しています。



小学校の校外学習のようす



火起こし体験



石斧・鉄斧体験



弓矢体験



植物観察



稲作体験



臼と杵を使った古代米の脱穀体験



古代米の餅つき体験・ふるまい



竪穴住居宿泊体験



星空観察・昆虫採集



昆虫観察と標本づくり体験



発掘体験



アングイン編み体験

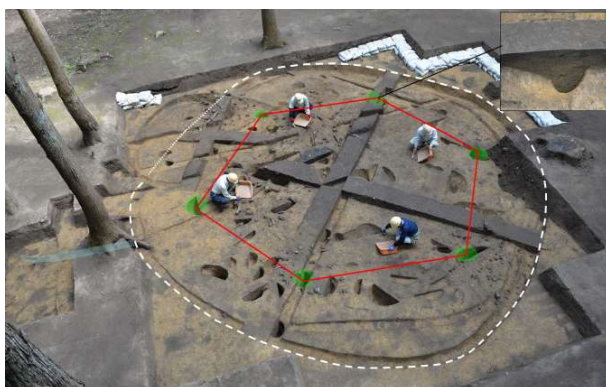
整備後の発掘調査

主要部分の整備は一旦終了しましたが、これまでの調査面積は遺跡全体の約 1/3 程度で、まだ不明な場所も多く存在します。将来にわたり遺跡を適切に保存・活用していくため、2017 年から遺跡北東域の史跡指定地外の場所において、内容把握のための発掘調査を行っています。

調査地は、標高約 50m の丘陵頂上部から一段下がった標高約 25m の丘陵中腹域の尾根筋にあたり、平坦面や緩斜面からなります。これまでの調査で、古津八幡山遺跡の中で最大となる大型竪穴建物(SI 1)や方形周溝墓(SZ743)などの重要な発見が相次いでいます。

大型竪穴建物は、規模が大きいことや 6 本柱構造であること、煮炊きを行うための炉や貯蔵用の穴が存在しないことなどから、居住以外の特別な目的で利用された建物と推測されます。

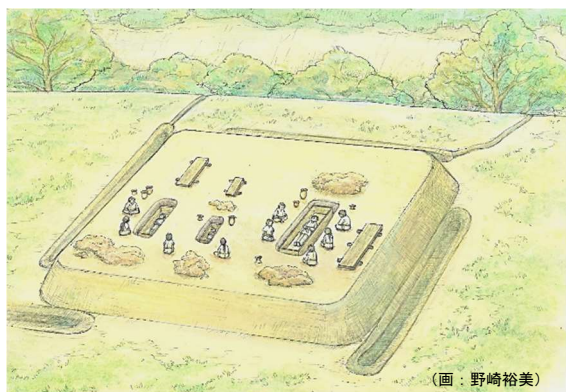
また、昨年見つかった方形周溝墓の内部では 3 基の埋葬施設が確認され、県内における弥生時代のお墓としては初の複数埋葬の事例として注目されています。この場所の発掘調査は今年で一旦終了する予定です。調査を通じて、古津八幡山遺跡の新たな価値が発見されたといえるでしょう。



大型竪穴建物調査風景（2020 年 第 23 次調査）



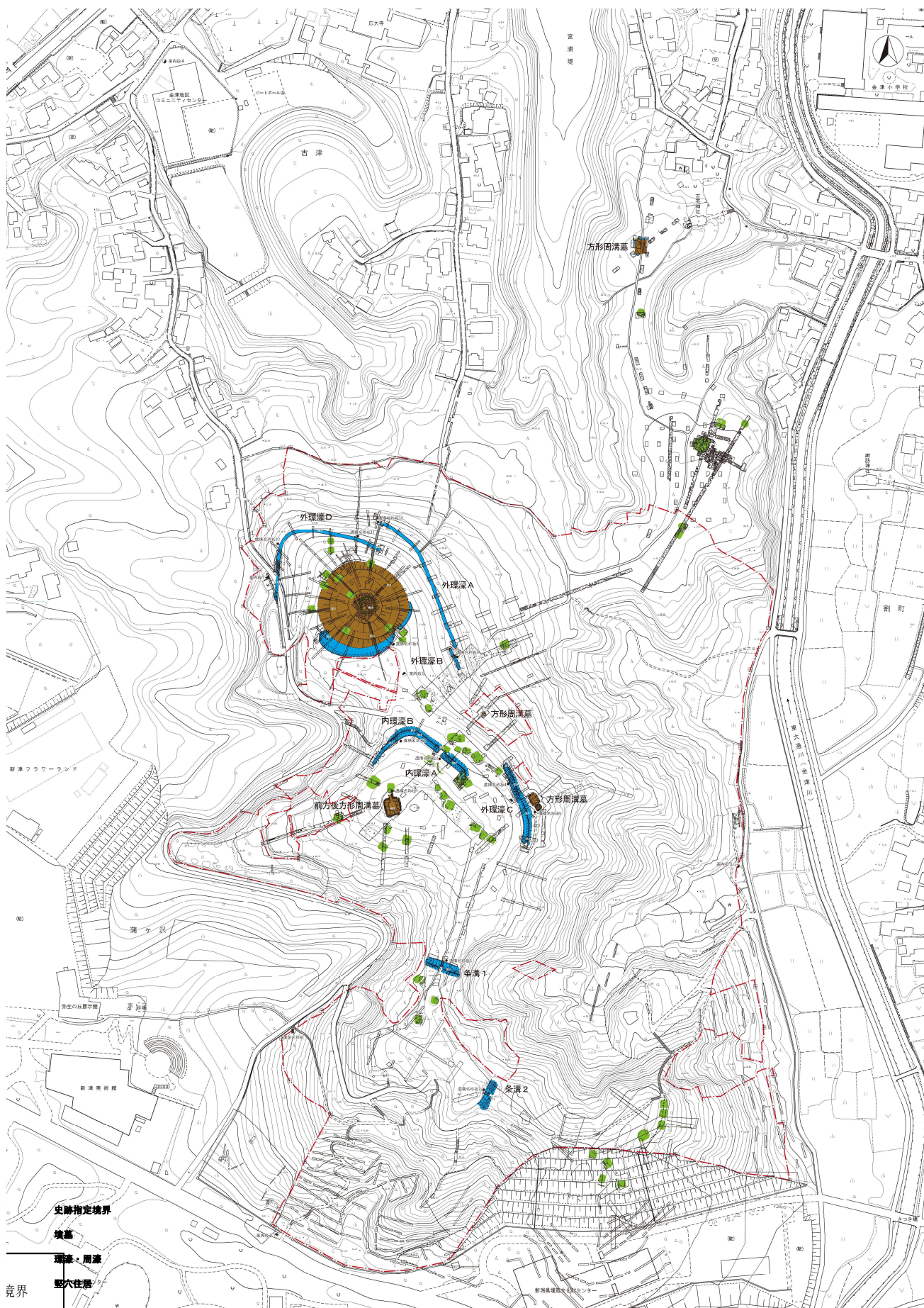
方形周溝墓調査風景（2021 年 第 24 次調査）



方形周溝墓推定復元イメージイラスト



発掘調査現地説明会のようす（2021 年 第 24 次調査）



古津八幡山遺跡遺構全平面図



平成 29～令和 3 年度の調査区平面図

今後の課題など

今後の課題として、まず古津八幡山遺跡を適切に保存・管理し、未来へと継承していくため、遺跡周辺の不明な場所については今後も適宜調査を行い、内容を把握していく必要があります。なお、整備後に調査を行い、重要な遺構が発見された遺跡北東域の史跡指定地外の場所については、今後「古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会」などで指定範囲の追加についても検討していく予定です。

整備・活用については、これまで試行錯誤しながらさまざまなことを行ってきました。古津八幡山遺跡周辺には、新潟県立植物園や新津美術館、新潟県埋蔵文化財センターなどさまざまな文化施設があり、また近くには新津の石油について学べる施設やフィールドも存在します。これらの諸施設がこれまで以上に連携をすることで、さまざまな相乗効果が期待されます。また、デジタル端末を利用した整備や活用、地元のガイドとの連携なども課題といえます。

最後に、古津八幡山遺跡の整備・活用について、ご要望やアイデアなどありましたら、どんなことでも結構ですでお聞かせ下さい。

古津八幡山遺跡の動向

時代	北陸南西部編年	古墳集成編年	新潟シンポジウム編年	古津八幡山遺跡					
弥生時代中期	小松 専光寺 戸水B			環濠	竪穴住居	掘立柱建物	墓	遺構の推定時期	
				—	—	—	—	竪穴住居	墓
弥生時代後期	1群 V-1群 V-2群 V-3群 猫橋式		1期						
	2群 2-1群 2-2群 法仏式		2期						
	3群 月影式		3期						
	4群 白江式		4期						
	5群		5期						
	6群		6期						
早期(弥生時代終末)	7群 古府クルビ式	1期	7期						
	8群	2期	8期						
	9群 高島式	3期	9期						
	10群	4期	10期						
古墳時代前期									

関連講演会1

ここまでわかった! 古津八幡山遺跡
—最新の調査成果を交えて—

講師 相田泰臣(新潟市文化財センター学芸員)
日時 11月20日(日)13:30~15:30
会場 新潟市新津美術館 市民ギャラリー

関連講演会2

新津の山に大きな遺跡と古墳があった!
—歴史を変えた古津八幡山遺跡—

講師 坂井秀弥氏(新潟市歴史博物館館長・奈良大学名誉教授)
日時 2月5日(日)13:30~15:30
会場 新潟市新津美術館 レクチャールーム

講演会お申し込み方法

下記QRコードでお申し込みください。パソコン・スマートフォンをお持ちでない方は、お電話にて新潟市文化財センター(TEL. 025-378-0480)までお申し込みください。

講演会1

申し込み期間
10/ 5~
11/15



講演会2

申し込み期間
12/ 7~
1/31



展示解説

日時 ①11月20日(日)15:45~ ②2月5日(日)15:45~
会場 弥生の丘展示館 展示室
※申し込み不要。直接会場へお越しください。

(共催 新潟市新津美術館)